



助丸区花菖蒲愛好会 会長

古嶋忠典さん

ふるしま・ただのり 1939（昭和14）年生まれ。助丸区在住。「みんな仲良く健康で」がモットー。花の植樹が趣味。「花菖蒲祭の頃には一面が紫・白・黄色のハナショウブで埋め尽くされますよ」

毎年6月、助丸区<sup>すけまるく</sup>花菖蒲園には、25種類・約3000株の見事なハナショウブが咲き誇ります。「ハナショウブは私の生きがいです。心をこめて手をかければ、正直にきれいな花を咲かせてくれます」と話すのは、助丸区花菖蒲愛好会長の古嶋忠典<sup>ふるしまただのり</sup>さんです。

農業後継者不足などの影響もあって、助丸区にも休耕田が目立つようになり、古嶋さんは「地域によい影響を与えないのでは」と考えていました。転機が訪れたのは平成20年の2月です。「ハナショウブの株を分けてあげる、との話が、2人の知人からありました。休耕田を借りる約束もできたので、行動に移すしかない」と一念発起。花菖蒲園を作り、地域の人の憩いの場にしたいとの思いで、助丸区花菖蒲愛好会を結成しました。「助丸区内で会員を募集したところ、36人の会員が集まりました。平均年齢は70歳以上でしたが、みんな元気でしたね」平成20年3月からすぐに活動を開始しましたが、作業は

難航を極めます。「枯れた草などが何重にも折り重なり、草刈りは大変でした。その後、土を耕し、株分け、新たに300株を購入し、植え付けました。6月には花が咲き、みんな喜びました」と古嶋さんは当時を振り返ります。

平成21年6月には、初めての花菖蒲祭を開催しました。「もっと多くの人にハナショウブを見てもらいたいとの気持ちで芽生え、運営業務のほとんどを会員が自主的に行ったんですよ。今月3日には、9回目の花菖蒲祭が開催されます。「今では、県内だけでなく、九州内からもお客さんが来てくれるようになりました。ハナショウブの町助丸区が定着してくれると嬉しいですね」

活動を通して、元気な高齢者を増やしたいと古嶋さんは言います。「役割があると人は輝く。地元の小学生に花摘みを教えるときなど、会員たちはいつも以上に元気になりますよ」。ハナショウブの花言葉は、「優しさ」。今日も古嶋さんは優しいほほ笑みです。



1・2 愛好会の皆さん。「作業をする時は、和気あいあいとしています。活動できるのも会員たちのおかげですね」と古嶋さん 3 見事に咲いたハナショウブ。6月1日(休)～10日(出)の午後7～9時まではライトアップもされます。4 毎年、祭りは多くの人でにぎわいます。「愛好会の運営や祭りの実行に関して、地域の皆さんにはお世話になってます」と古嶋さん